

2021年3月期 第2四半期決算の発表について

昭和産業株式会社(社長:新妻一彦)の2021年3月期第2四半期連結決算は、売上高124,180百万円、経常利益4,970百万円となりました。2021年3月期連結業績予想については、売上高2,540億円、経常利益85億円を見込んでおります。

【2021年3月期第2四半期連結決算】

当第2四半期連結累計期間の我が国経済は、昨年度末から続く新型コロナウイルス感染症の影響により、経済・社会活動が制限され、極めて厳しい状況が続きました。ウィズコロナに対応した生活様式が定着し、経済・社会活動にも持ち直しの動きが見られますが、引き続き感染動向には注視する必要があり、依然として先行きは不透明感の高い状況が続いております。

このような状況の中、当社90周年を迎える2025年度のありたい姿(長期ビジョン)「SHOWA Next Stage for 2025」の実現に向け、2nd Stage「中期経営計画20-22」を本年4月にスタートいたしました。5つの基本戦略「①基盤事業の強化」「②事業領域の拡大」「③社会的課題解決への貢献」「④プラットフォームの再構築」「⑤ステークホルダーエンゲージメントの強化」の各種施策の推進に努めてまいります。

当第2四半期連結累計期間では、「②事業領域の拡大」の施策については、台湾大成グループのグループ会社である「國成麵粉股份有限公司」および「中一食品股份有限公司」が実施する第三者割当増資による株式を引き受け、台湾において新たに「製粉事業」「飼料事業(鶏卵)」に参入いたしました。両社は当社の持分法適用会社となりました。

さらに、当社グループが取り扱う油種の品揃えの拡大を目的に、米油を取り扱うボーソー油脂株式会社を完全子会社化いたしました。両社の持つ経営資源や知見を相互に活用し、製造体制の統合や両社の商材と販路の活用等を行うことにより、両社における事業のシナジーを最大化させてまいります。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、連結売上高は124,180百万円と前年同期に比べ3,971百万円(3.1%)の減収となりました。営業利益は4,177百万円と前年同期に比べ879百万円(17.4%)の減益、経常利益は4,970百万円と前年同期に比べ935百万円(15.8%)の減益、親会社株主に帰属する四半期純利益は6,918百万円と前年同期に比べ2,414百万円(53.6%)の増益となりました。

【2021年3月期連結業績予想】

2021年3月期の連結業績予想につきましては、当初、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が第2四半期まで続くと想定して作成しておりましたが、先行きは依然として不透明な状況であり、第3四半期以降も影響が継続するものと見通しを修正いたしました。

業績予想の修正の詳細につきましては、本日公表の「特別利益(負ののれん発生益)の計上及び連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

以 上

<本件に関する報道関係の方のお問い合わせ先>

昭和産業株式会社 経営企画部 コーポレート・コミュニケーション室 担当:赤松
TEL:03-3257-2042